

## アンケート結果から見えてきた課題と次期計画に向けて

### 1 本資料の目的と構成

本資料は、アンケート調査結果から見えてくる課題を、川越市障害者支援計画の施策体系（施策分野 1～7）に紐づけて整理し、次期計画（令和 9 年度始期）に向けた見直しの方向性（案）を審議いただくための資料です。

### 2 アンケート調査結果

| 調査対象          |                | 抽出者数  | 回収数   | 回収率   |
|---------------|----------------|-------|-------|-------|
| I<br>当事者調査    | 障害者手帳所持者等      | 3,200 | 1,651 | 51.6% |
|               | 身体障害者          | 800   | 450   | 56.3% |
|               | 知的障害者          | 800   | 389   | 48.6% |
|               | 精神障害者          | 800   | 367   | 45.9% |
|               | 難病患者           | 800   | 445   | 55.6% |
|               | （発達障害者）        | -     | 357   | -     |
|               | （高次脳機能障害者）     | -     | 45    | -     |
|               | 特別支援学校高等部 3 年生 | 44    | 18    | 40.9% |
| 施設・グループホーム利用者 | 511            | 248   | 48.5% |       |
| II            | 障害のない市民        | 800   | 327   | 40.9% |

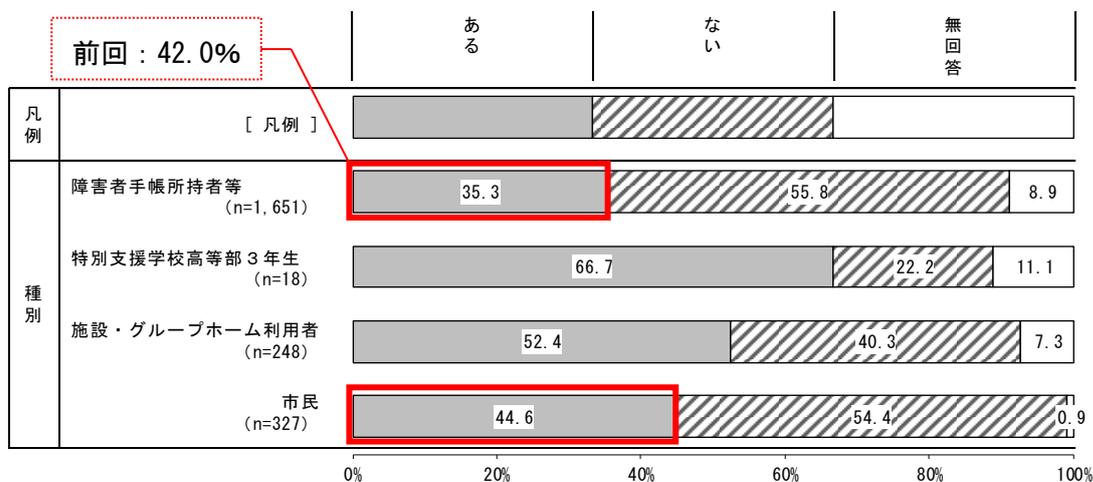
### 3 計画の施策体系と課題の紐づけ

| 【基本理念】                         | 【基本目標】                  | 【施策分野】           | 【アンケート結果からみえる課題】                       |
|--------------------------------|-------------------------|------------------|--|
| 自立と共生のまちをめざして<br>自分らしく、よりよく生きる | 1 誰もが安全・安心に暮らせるまち       | 1 差別解消・相互理解・権利擁護 | 差別解消法・地域共生社会等の認知度<br>差別や偏見を感じる場面の有無 ほか |
|                                |                         | 2 住みよい福祉のまちづくり   | 災害時の困りごと<br>災害時に望む支援 ほか                |
|                                |                         | 3 保健・医療サービスの充実   | 健康管理・医療への困りごと ほか                       |
|                                | 2 自立を尊重し、総合的な支援が受けられるまち | 4 療育体制及び学習機会の充実  | 通園・通学時の困りごと ほか                         |
|                                |                         | 5 雇用・就労の促進       | 仕事での困りごと有無<br>障害者の就労促進に必要なこと ほか        |
|                                | 3 一人ひとりに配慮した支援が受けられるまち  | 6 福祉サービスの充実・向上   | 現在の生活での困りごと<br>希望する将来の暮らし ほか           |
|                                |                         | 7 社会参加の拡充        | 外出時の困りごと<br>情報収集や意思疎通の困りごと ほか          |

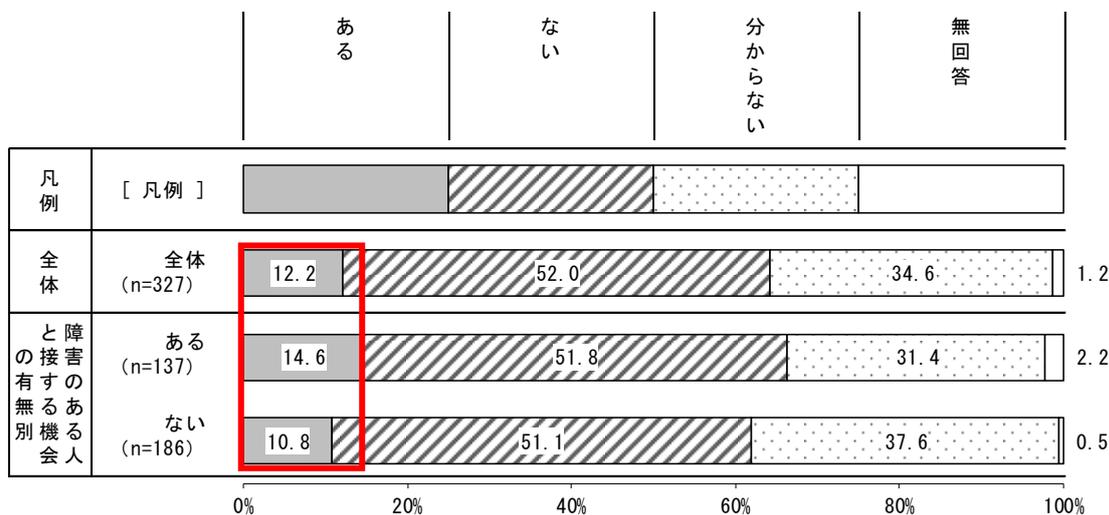
# 施策分野 1 差別解消・相互理解・権利擁護

## (1) 関連するアンケート調査の結果

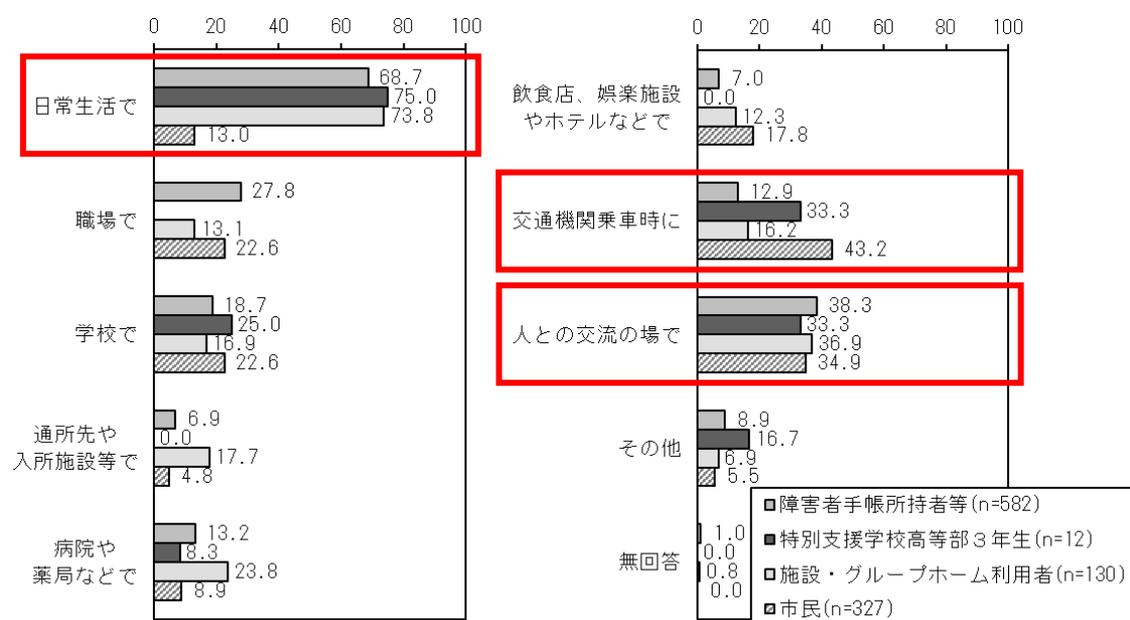
### 【差別や偏見を受けた（目にした）ことがある】



### 【自身の差別意識の有無（市民）】

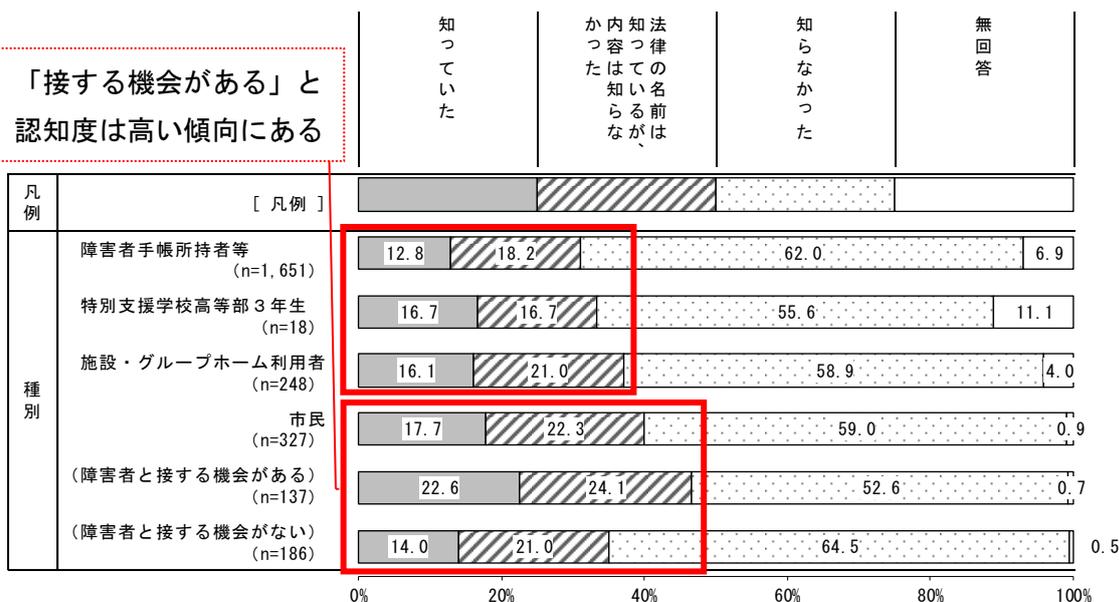


### 【差別や偏見を受けた（感じた）場面】

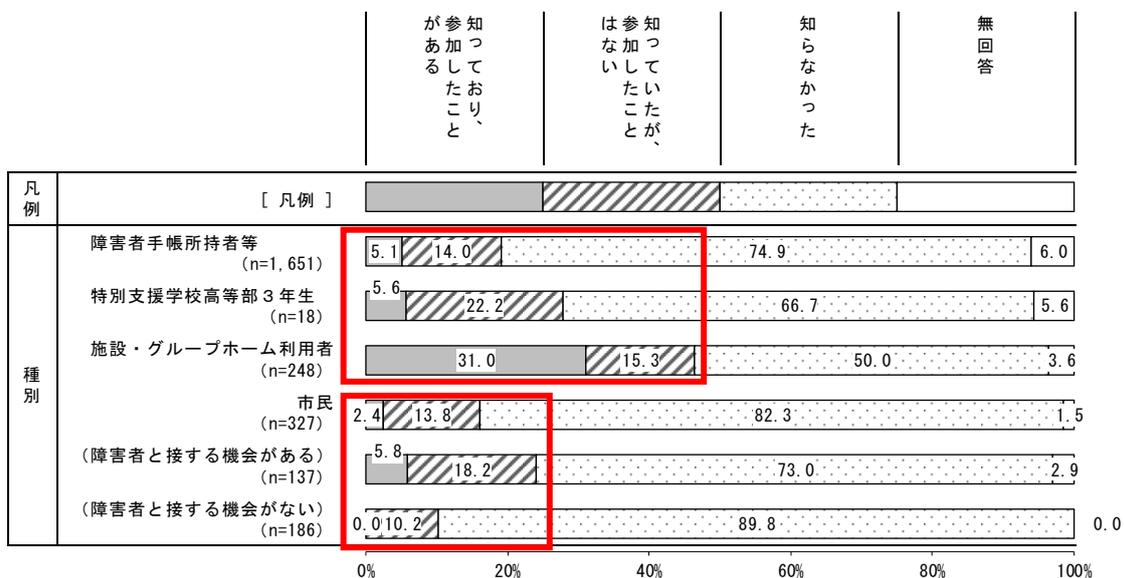


### 【「差別解消法」の認知度】

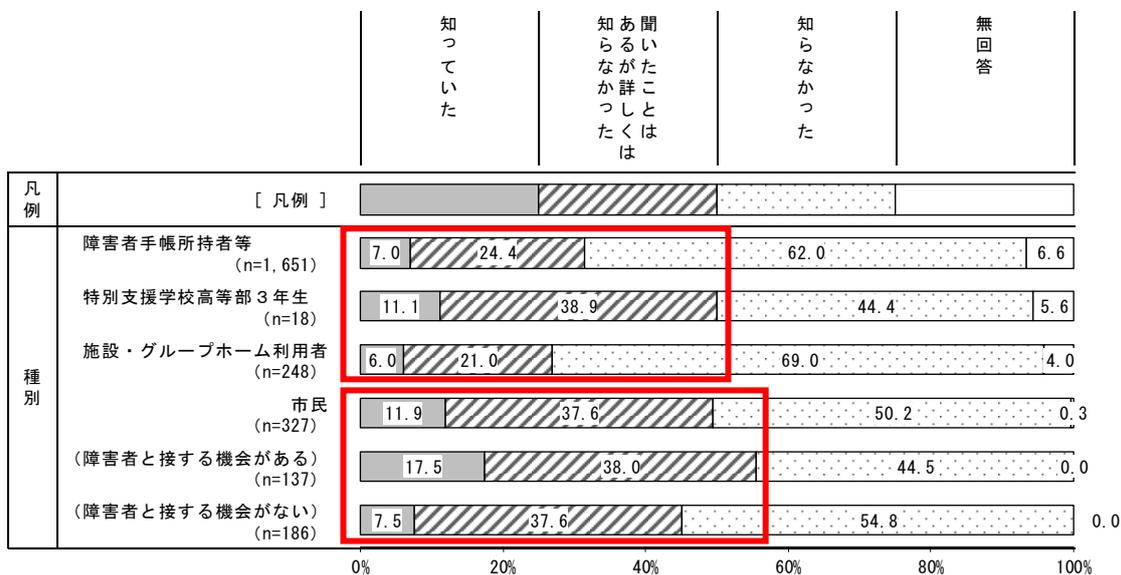
「接する機会がある」と  
認知度は高い傾向にある



### 【「障害者週間の集い」の認知度】



### 【「地域共生社会」の認知度】



【施策分野1に関連する自由記述（抜粋）】

| No.                             | 内容  |
|---------------------------------|---|
| <b>■障害者理解のために力を入れるべきこと（当事者）</b> |   |
| 1                               | 障害児者の存在を知ってもらうことが必要。知らないから、怖い、私には関係ないと感じる人が多いと思う。小さい時から触れ合う機会があれば良いと思う。                         |
| 2                               | ”経験がない””わからない”で怖がられてしまう事が多いので、ひとつひとつ必要なことを説明して実際、関わってもらうことが一番かと思っています。                          |
| 3                               | 障害者自身が困っている事などを伝え広めて行かないと、理解されないこともあるかと思っています。  |
| <b>■誤解や偏見を解消するために必要なこと（市民）</b>  |   |
| 1                               | 障害者本人そして家族が何を望んでいるのか当事者の声を聴きたい。   |
| 2                               | 障害がある人の問題が理解できるように、日常的に接する場があればもっとスムーズに助け合うことができるのではないかと思います。                                   |
| <b>■障害者に対するイメージ（市民）</b>         |   |
| 1                               | 社会生活をする上で大変なことが多くあると思いますが、健常者よりも何倍も努力し、前向きに生きているように感じます。  |
| 2                               | 頑張っていると思います。明るい障害のある人を見ると幸せに感じます  |
| 3                               | たまたま障害があるだけで普通の人と変わらない。   |
| 4                               | 取り立ててどのようなイメージは意識していない。健常者と同じくい人もいるし嫌な人もいる。   |
| 5                               | 人生の中で、何度か接する機会があった。障害を持っている方が、ポジティブな方だったので、わたしから壁を作ることはなかった。ポジティブじゃ無い人とのコミュニケーションは悩んでしまうかもしれない。 |
| <b>■障害のある人に偏見があると思う理由（市民）</b>   |   |
| 1                               | 電車に乗っているときに知的障害の方から怖い思いをさせられたことがある。知人や付き添いの人がいるとき以外は正直関わりたくないと思ってしまう。                           |
| 2                               | ないように心がけているけれどやっぱりどこかで怖そうとか怖いと思ってしまうことがあるので。  |
| 3                               | 配慮が必要になるため。その配慮が健常者の負担になっていることがわかるため。   |
| 4                               | 障害のある子がいるが、公共の場などでパニックを起こしたり騒いでしまうと何故普通に出来ないのか恥ずかしく感じてしまうから。                                    |
| 5                               | 偏見や差別意識を変えられるきっかけに出会っていないため。  |

## (2) 見えてくる課題

| No. | 課題の考察   |
|-----|---|
| 1   | <b>依然として残る差別や偏見意識</b> <p>手帳所持者等では、「差別や偏見を感じている」と回答した割合は35.3%と、前回(R4)調査の42.0%から6.7%下がっている。</p> <p>障害のない市民では、「障害のある人と接する機会の有無」別に結果を見ると、接する機会がある人の方が差別意識があると回答した割合が高く、「差別解消法」等の認知度も高い傾向にあった。</p> <p>自由記述からは、障害のある人は「知ってもらいたい」と思っており、障害のない市民も「何を求めているか知りたい」と思っている。</p> <p>また、「知らないこと」が差別や偏見につながっている可能性がある一方で、「知っていること」がネガティブな印象を持つ要因となっている可能性も読み取れる。</p> <p>差別意識がある理由を「偏見や差別意識を変えられるきっかけに出会っていないため」と回答している人もいる。</p> |
| 2   | <b>「障害者差別解消法」等の認知度</b> <p>手帳所持者等の「差別解消法」の認知度は31.0%、障害のない市民の認知度は40.0%で、障害のある人との接する機会の有無で有意な差が見られた。(機会ありが46.7%、機会なしが35.0%)</p>  |

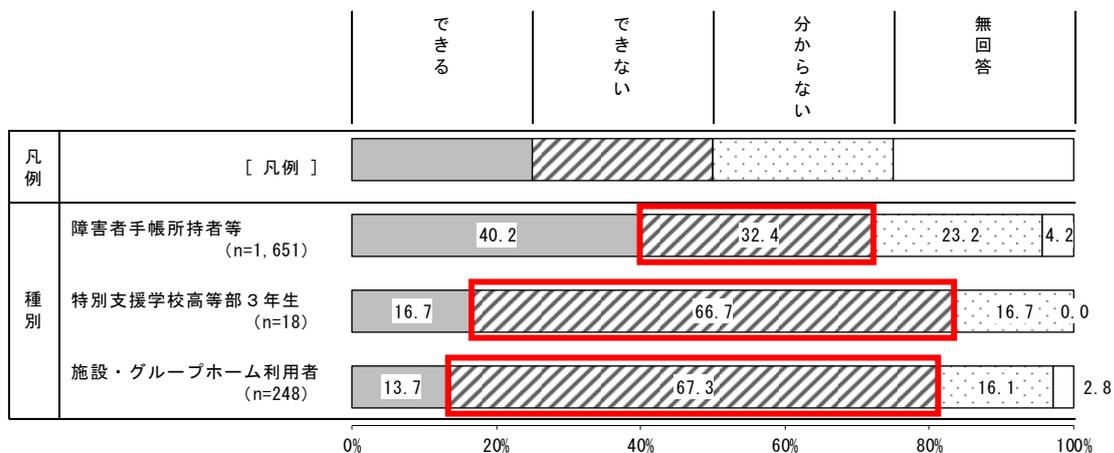
## (3) 次期計画の方向性 (案)

| No. | 検討の方向性  |
|-----|---|
| 1   | <b>差別の解消及び相互理解の促進</b> <p>障害のある人が普段の生活でどのような配慮を必要としているのか分かるように、市民に向けた合理的配慮に関する周知を行い、相互理解の促進に努める。</p> |
| 2   | <b>交流機会の創出</b> <p>「障害者週間の集い」など、障害の有無に関わらず、市民が交流できる機会の創出を図る。</p>                                     |

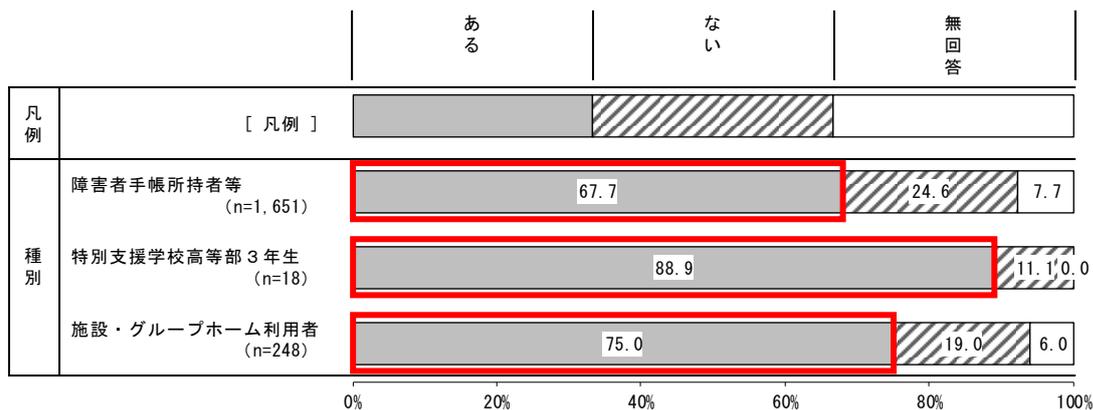
## 施策分野2 住みよい福祉のまちづくり

### (1) 関連するアンケート調査の結果

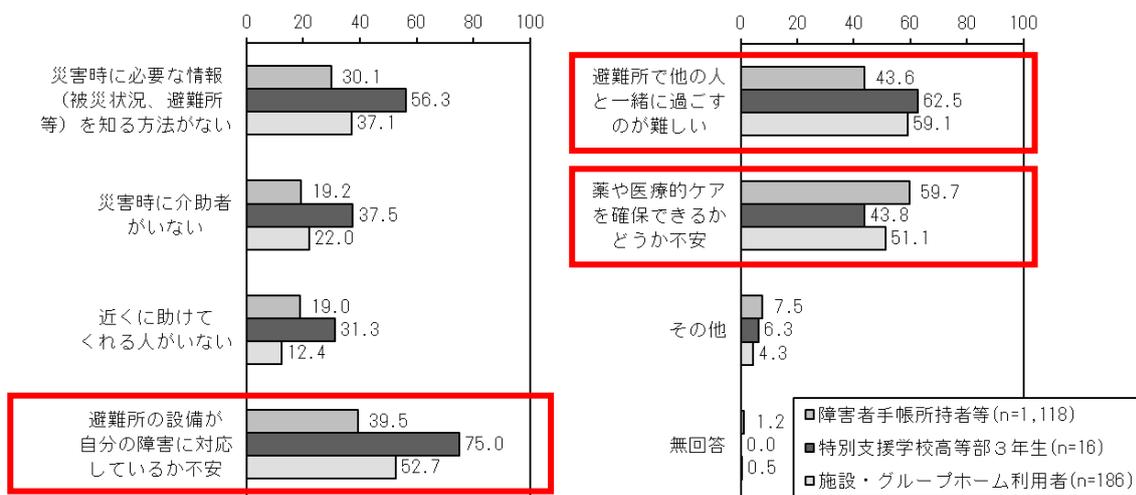
#### 【災害時の自力避難の可否】



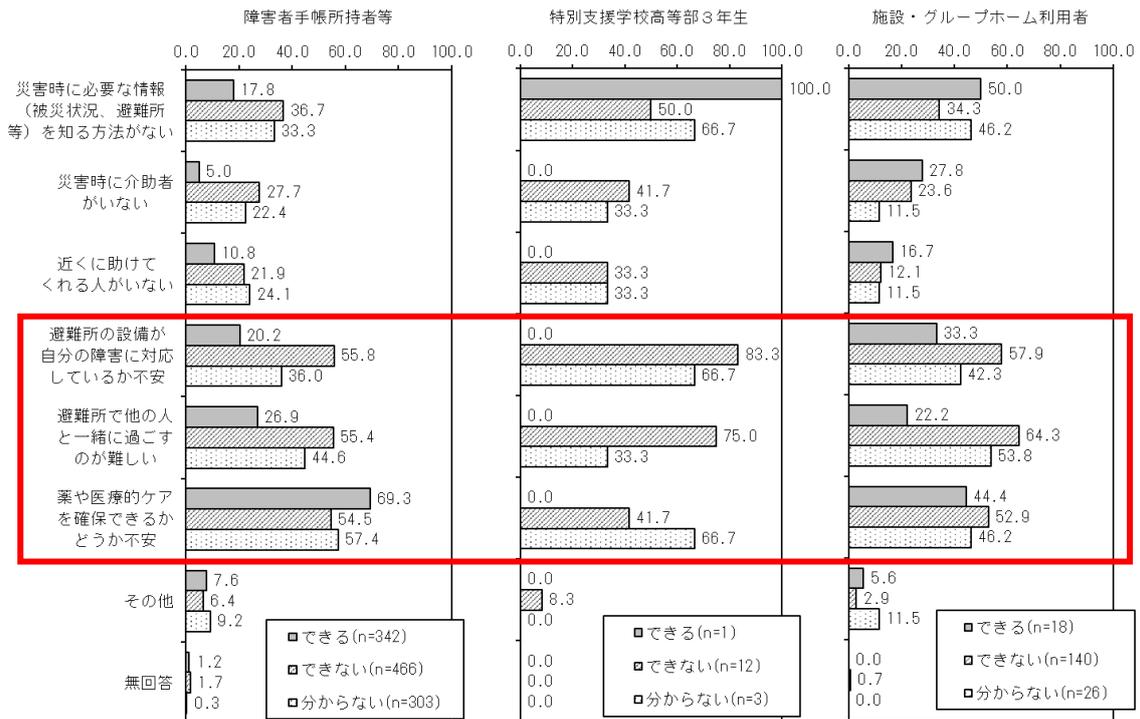
#### 【災害時の困りごとの有無】



#### 【災害時の困りごとの内容】



## 【自力避難の可否 × 災害時の困りごとの内容】



## 【施策分野2に関連する自由記述（抜粋）】

| No.                   | 内容   |
|-----------------------|--|
| <b>■災害時に困ること（当事者）</b> |  |
| 1                     | 投薬が十分に行えるか不安。  |
| 2                     | コミュニケーションがとれるか不安。  |
| 3                     | 親がいない時にどうすれば良いかわからない。  |
| <b>■災害時に望む支援（当事者）</b> |  |
| 1                     | 医療的ケアに必要な物資や場所の確保。   |
| 2                     | 災害時に必要な情報を得る方法が分からない。  |
| 3                     | 避難所までの介助が必要。   |
| 4                     | 準備しておくの良い防災グッズ一覧があれば、分かりやすく助かるなどと思います。   |
| 5                     | 障害者に詳しい人を避難所に配置して欲しい。避難所を分けることができるなら、分けた方が良い。  |
| 6                     | 健常者とは別の避難所があると助かる。   |
| 7                     | 病院や医療対応施設への避難ができるようにしてほしい  |
| 8                     | 川越特別支援学校が通常の避難所がいっぱいになった際の障害者の避難場所となると聞いたことがあるが、障害のある子供を連れて歩くのは非常に負担なので初めからそこに避難したい。 |
| 9                     | 福祉避難所を開設し優先して案内して欲しい。  |
| 10                    | どこに支援の必要な人がいるのか事前の把握と災害時の具体的な対応のシミュレーションを望みます。                                       |

## (2) 見えてくる課題

| No. | 課題の考察  |
|-----|--|
| 1   | <b>災害時の薬の確保や避難所設備への不安</b> <p>災害時に困っていることや不安なこととして、「薬や医療的ケアを確保できるか不安」、「避難所で他の人と一緒に過ごすのが難しい」、「避難所の設備が自分の障害に対応しているか不安」が上位の回答となっている。</p> <p>自由記述でも、薬や設備の確保への不安や、避難所で共同生活への不安がある人が多い。</p> <p>また、避難所を分けてほしいとの要望も多く、医療機関や特別支援学校等を障害のある人の避難所として開放してほしいとの意見も見られた。</p> |
| 2   | <b>必要な情報取得や具体的な訓練</b> <p>手帳所持者等の 32.4%、特別支援学校高等部3年生の 66.7%、施設・グループホーム利用者の 67.3%が自力避難ができないと回答している。</p> <p>災害時に必要な情報を得る方法や、避難所まで行くための介助、必要な防災グッズ情報の提供、災害時の具体的なシミュレーションを求める声が見られた。</p>  |

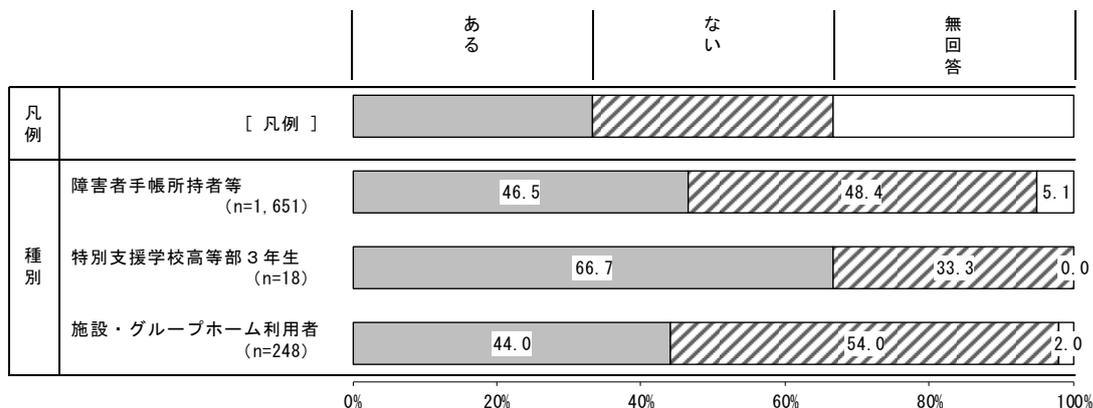
## (3) 次期計画の方向性（案）

| No. | 検討の方向性  |
|-----|---|
| 1   | <b>災害発生時に備えた「個別避難計画」の作成促進</b> <p>災害時に備えて、「何ができて、どんな支援が必要か」を明らかにするため、相談支援事業所等と連携し、「個別避難計画」の作成を進める。</p> |
| 2   | <b>災害発生時に必要となる情報の提供</b> <p>事前に備えておくべき防災用品や、災害時に必要となる情報を整理し、市ホームページ等で効果的に周知する方法を検討する。</p>              |
| 3   | <b>災害発生時を想定した具体的な訓練の実施</b> <p>障害のある人が参加できる防災訓練、福祉避難所の開設訓練など、災害時を想定した具体的なシミュレーションの実施を検討する。</p>         |

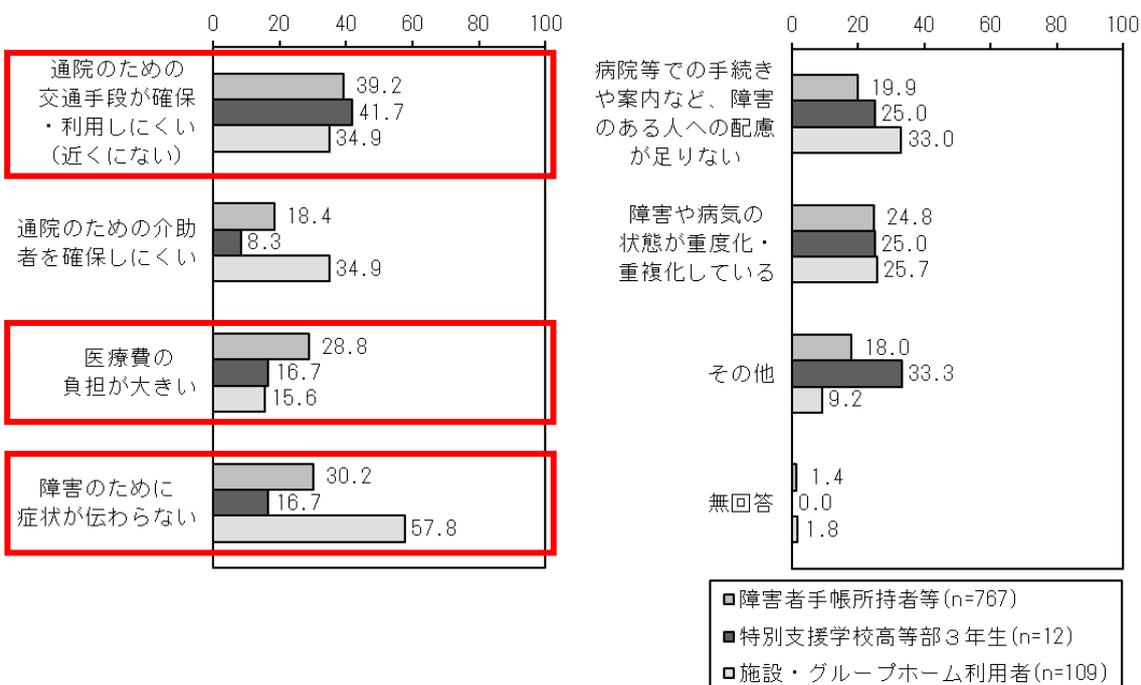
### 施策分野3 保健・医療サービスの充実

#### (1) 関連するアンケート調査の結果

【健康管理や医療について困ったり不便に思うことの有無】



【健康管理や医療について困ったり不便に思うこと】



【施策分野3に関連する自由記述 (抜粋)】

| No.                                  | 内容  |
|--------------------------------------|---|
| <b>■健康管理や医療について困ったり不便に思うこと (当事者)</b> |   |
| 1                                    | 介護タクシーを往復で利用しており、移動費が高額である。               |
| 2                                    | 家族に負担がかかる。(通院の際)                          |
| 3                                    | 手続きが複雑である。具合がよくないときは、負担が大きく感じる。           |
| 4                                    | 市役所に手続きに行くのが大変。                           |
| 5                                    | 職場の人の理解や、日常生活での病状悪化など、本人にしか分からない症状を伝えにくい。 |
| 6                                    | 相談しても何も解決しないので、薬をもらうためだけの診療になっている。        |

## (2) 見えてくる課題

| No. | 課題の考察  |
|-----|--|
| 1   | <b>通院にかかる移動費用の負担</b><br>困りごととして、手帳所持者等では「通院のための交通手段が確保・利用しにくい」が39.2%と最も多く、自由記述でも、移動費用を負担に感じているとの意見も見られた。   |
| 2   | <b>行政手続きの負担</b><br>行政手続きの複雑さ、来庁負担に関する意見が見られた。体調が不安定な時期には、手続きそのものが大きな負担となり、必要な支援や制度利用に支障が生じるおそれがある。手続きの簡素化や、来庁に依存しない手続き方法の拡充が求められる。                   |
| 3   | <b>医療と福祉の連携</b><br>自由記述では、「相談しても解決しないため、薬をもらうためだけの診療になっている」など、医療と生活課題（福祉サービス利用等）が十分につながっていない状況がうかがえる。<br>医療機関と相談支援・福祉サービスが連携し、必要な支援につなぐ仕組みづくりが課題である。 |

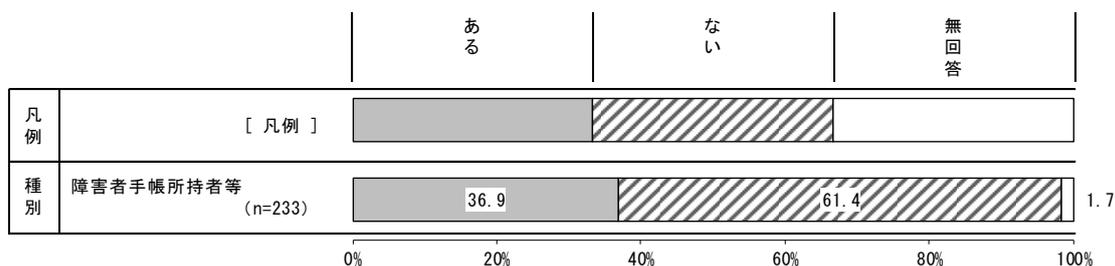
## (3) 次期計画の方向性（案）

| No. | 検討の方向性  |
|-----|---|
| 1   | <b>通院・受診に係る移動支援の充実</b><br>移動支援や通院等介助等の既存制度について、対象者要件や利用方法を整理し、相談支援事業所等を通じて分かりやすく周知する。<br>あわせて、通院困難者（家族支援が得られない人、車いす利用者等）に対して、必要な移動手段の確保につながる支援策を検討する。 |
| 2   | <b>行政手続きの負担軽減</b><br>国のシステム標準化に合わせて、手続きの簡素化を進め、来庁に依存しない手続き方法の検討を進め、負担軽減を図る。   |
| 3   | <b>医療と福祉の連携体制の強化</b><br>医療機関と相談支援・福祉サービス等が連携される仕組みを整備し、困ったときに相談につながる情報提供を進め、生活課題の早期把握と支援につなげる。  |

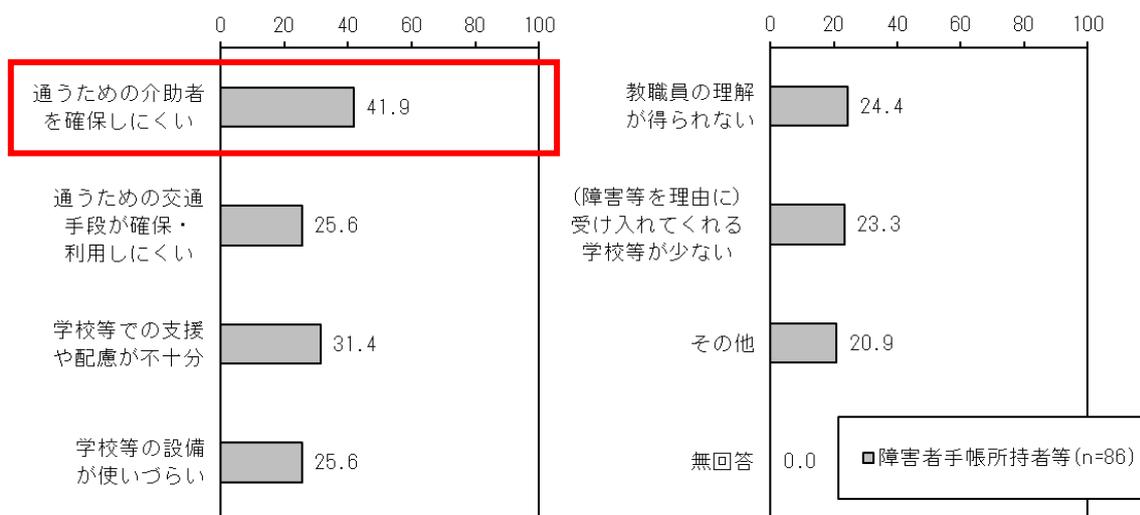
## 施策分野4 療育体制及び学習機会の充実

### (1) 関連するアンケート調査の結果

#### 【幼稚園や保育所、学校等に通うにあたって困っていることの有無】



#### 【幼稚園や保育所、学校等に通うにあたって困っていること】



#### 【施策分野4に関連する自由記述（抜粋）】

| No.                                     | 内容   |
|---|--|
| <b>■幼稚園や保育所、学校等に通うにあたって困っていること（当事者）</b> |  |
| 1                                       | 川越市にも保育園・幼稚園の中に療育支援が受けられる所があればとても助かります。  |
| 2                                       | 小学生一年生で支援級に通うダウン症児だが、放課後デイサービスの利用において不安感を感じる事が多い。事業所によっては周囲の子供達の発達レベルに合わせており、自閉症など知的遅れのない子供たちに混ざって活動するのが困難なケースがある。送迎などの条件で選択肢も元々狭い中、利用の門戸を広げる政策が開始されるとなると、不安が大きい。小学校では支援級でよくサポートしていただいている。 |
| 3                                       | 教職員が支援級の子供に為しての理解や障害、福祉サービスの事など知らない（知らなさすぎる）。  |
| 4                                       | 予算を理由に支援員を付けるのが難しいと言われる。1つの学校につき、支援員が少ないのではないか。  |
| 5                                       | 宿泊学習の際、与薬はできないとのことで親と一緒に引率しなくてはならない、ホテル代など親もかかり、負担が大きい。  |

## (2) 見えてくる課題

| No. | 課題の考察  |
|-----|--|
| 1   | <b>通園・通学するための介助者の確保</b><br>幼稚園や保育所、学校等に通うにあたって困っていることとして、「通うための介助者を確保しにくい」が41.9%で最も多くなっている。  |
| 2   | <b>療育体制の整備及び学校生活等における支援の提供</b><br>自由記述では、放課後等デイサービス等の受入状況への不安や、宿泊学習時の与薬対応ができず親の同伴が必要になるなど、学校での活動が家族負担に転化している実態が見られた。また、教職員が障害特性や福祉サービスに関する理解が十分でないことや、支援員配置が難しいといった意見が見られる。<br>学校生活における合理的配慮の提供や、必要な支援を適切に提供できる体制（理解促進・人員確保）の確保が課題である。 |

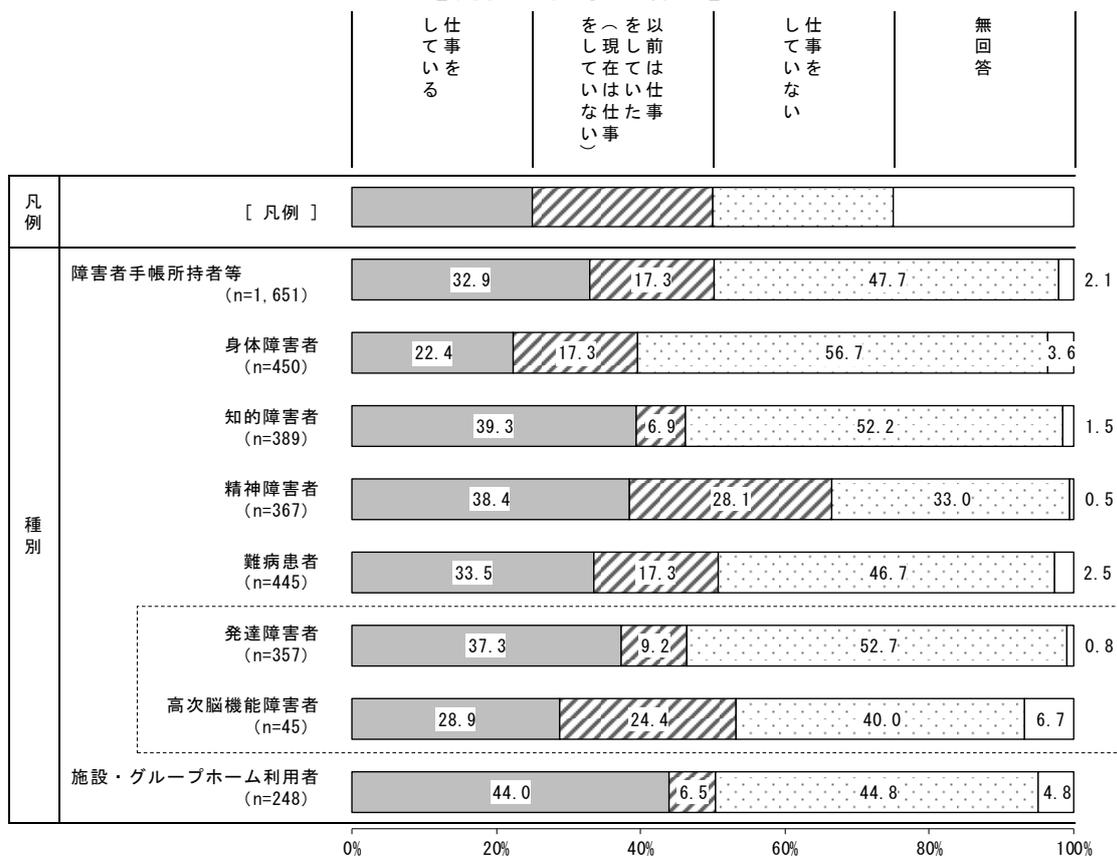
## (3) 次期計画の方向性（案）

| No. | 検討の方向性  |
|-----|---|
| 1   | <b>外出に際しての家族負担の軽減</b><br>移動支援の適用範囲の拡大など、より利用しやすい制度の見直しを検討していく。<br><br>※施策分野7でも対応      |
| 2   | <b>学校生活における合理的配慮の充実</b><br>教職員等を対象にした研修などを実施し、具体的な合理的配慮事例を共有し、学校生活における合理的配慮の一層の充実を図る。 |

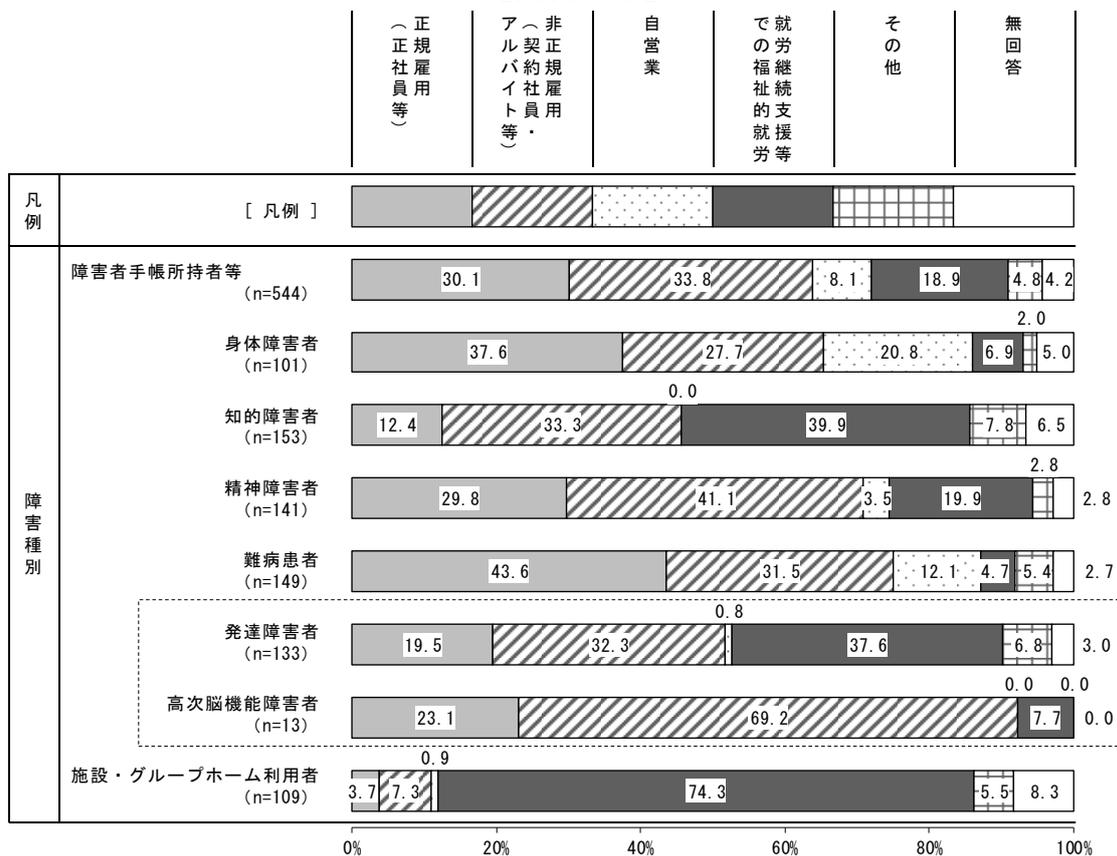
## 施策分野5 雇用・就労の促進

### (1) 関連するアンケート調査の結果

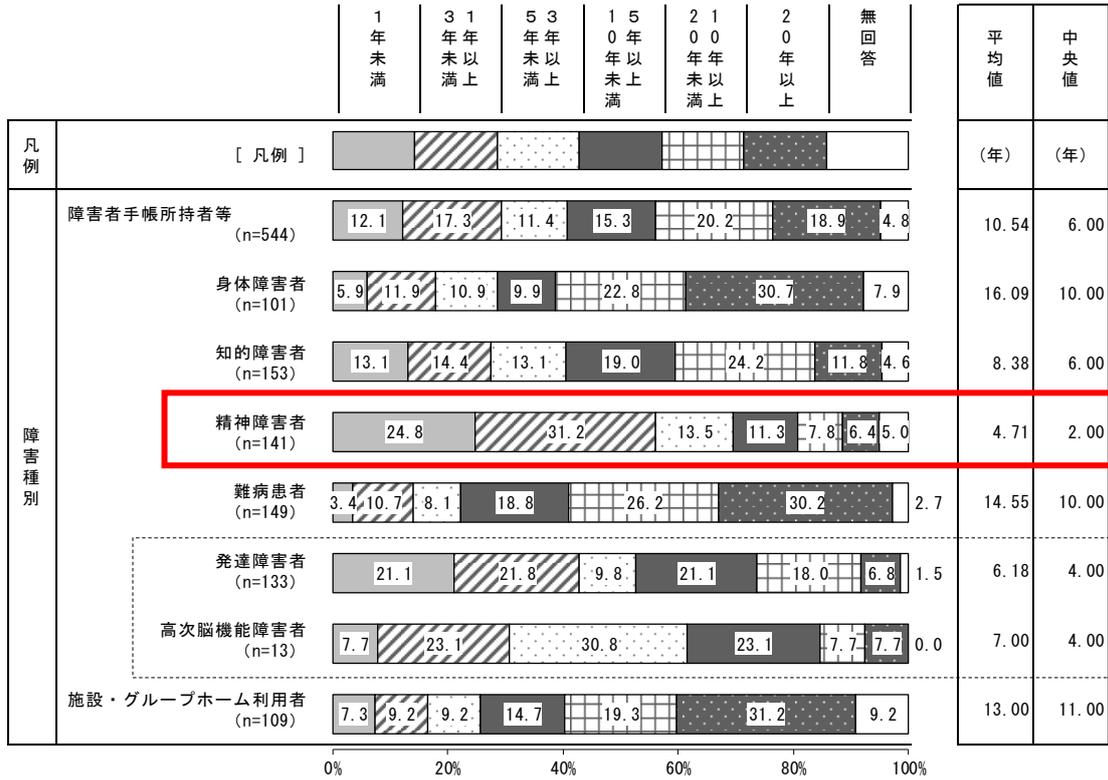
#### 【現在の仕事の有無】



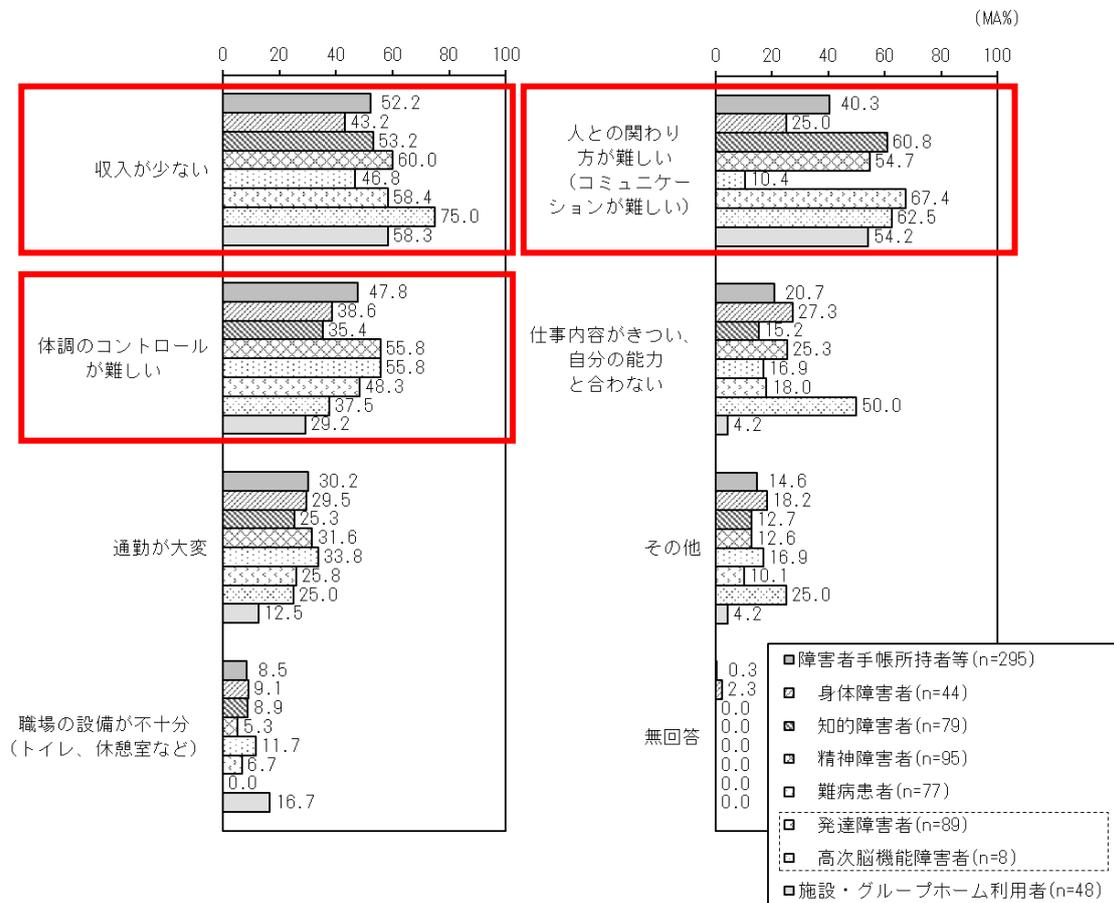
#### 【勤務形態】



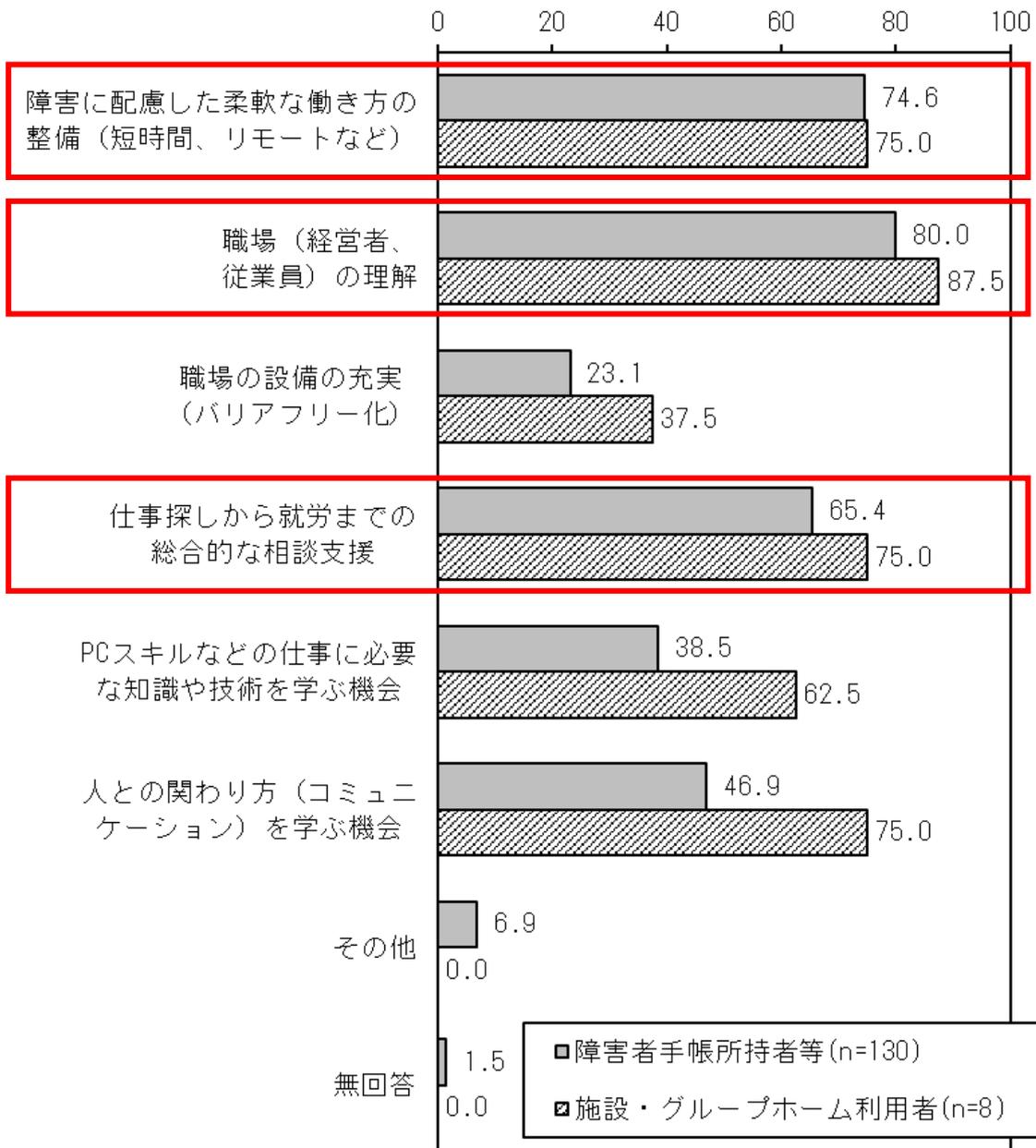
### 【勤続年数】



### 【仕事をする上で困っていること】



【現在就労なし × 将来就労意向あり × 就労促進に必要なこと】



【施策分野5に関連する自由記述（抜粋）】

| No.                         | 内容  |
|-----------------------------|---|
| <b>■仕事をする上で困っていること（当事者）</b> |   |
| 1                           | 現在服用している難病の薬が利尿作用が非常に強いので、トイレの頻度が多い。毎日業務が忙しいので、トイレに行きづらい。業務の状況によっては薬を飲むのを控えたりしている。                          |
| 2                           | 仕事をあまり頂けず、自習をすることが多いです。現在の職場には自分の適性やスキルに合った仕事が無いということと解釈しており、それでも賃金をいただけるのはありがたいことだと思う反面、このままではよくないと思っています。 |
| 3                           | 自分がASDであることを同僚に伝えるか否か。  |
| 4                           | 病気を理解してもらうのが難しい。  |
| 5                           | 障害者雇用で働いている方が最初、偏見を受けることもあり、体力仕事を押しつけられることも多い（通勤時休みづらい）。1年間に10日しか有休がない。                                     |
| 6                           | もっと仕事がしたい。  |
| <b>■仕事を辞めた理由（当事者）</b>       |   |
| 1                           | 病気に対する職場の理解を得られなかったから。  |
| 2                           | 職場内でのいじめにあい、精神疾患を発症した、自殺未遂をした。  |
| 3                           | 職場でのセクハラといじめで職を転々として、うつ病になった。   |
| <b>■就労促進のために必要なこと（当事者）</b>  |   |
| 1                           | 職場の人達の理解を進めるための研修。  |
| 2                           | 社会が障害者でも働けるという事を知ること、一緒に仕事をできるということなど偏見を解消するような取り組みが必要。   |
| 3                           | 自身の障害の理解や対処法について理解を深める機会。   |
| 4                           | 障害者、非障害者それぞれが、障害者の就労について正しい意識を身につけること。  |
| 5                           | 働ける場所を選択できるくらい就労場所があること   |
| 6                           | 出来る事は草むしり等、身体に負担の少ない事に限られるが、体調を配慮して出来る事をさせてほしい。   |
| 7                           | 障害者に対しての支援等が市役所で申請したり、その場に行かないとわからないし、お知らせが入ってこない。<br>就労支援に通ってても、情報が入ってこないから動きたくても動けなくて困っている                |

## (2) 見えてくる課題

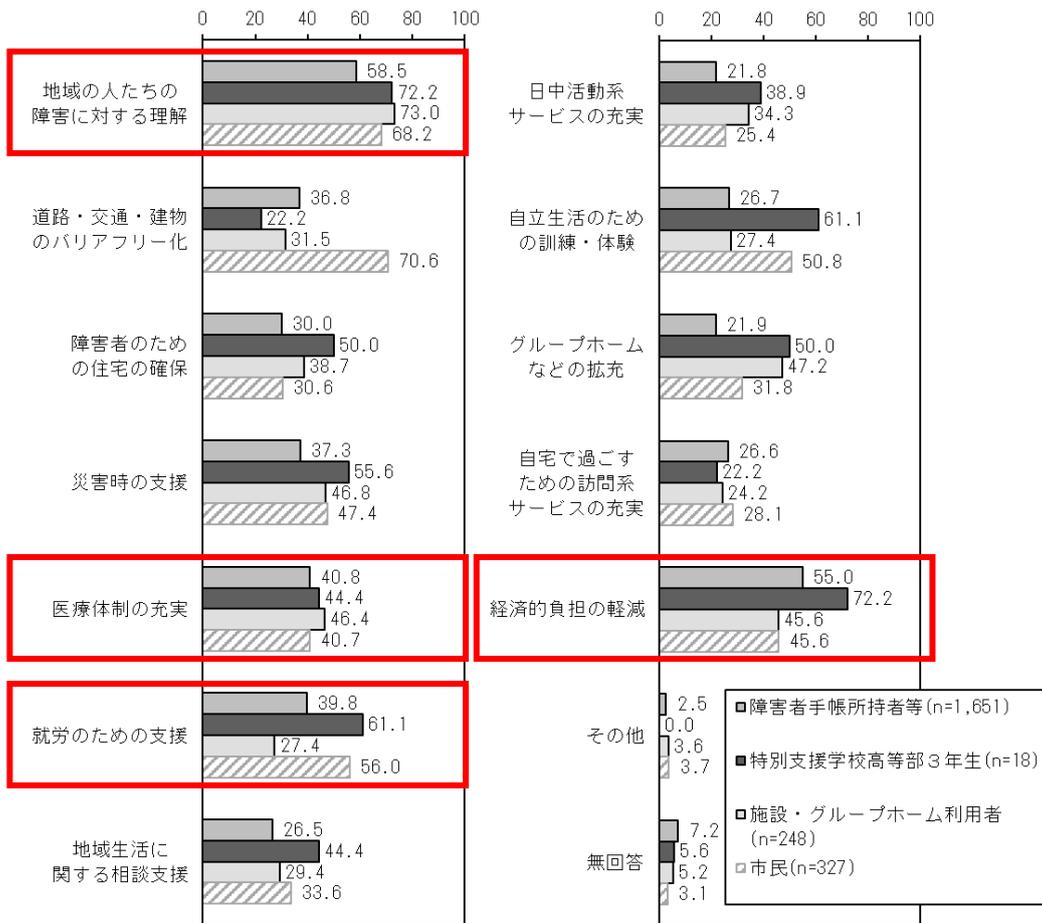
| No. | 課題の考察  |
|-----|--|
| 1   | <b>職場における合理的配慮の提供</b> <p>自由記述では、人間関係、体力面、休暇の取りにくさ、障害や病気への理解不足、トイレ利用や服薬の調整など、就労継続に直結する困りごとが多様に示されている。</p> <p>また、嫌がらせやいじめ、セクハラ等により心身の不調につながった経験も見られ、職場の理解や配慮の不足が就労継続の阻害要因となり得る。このため、合理的配慮の浸透や、困りごとが生じた際に支援につながる仕組みの確保が課題である。</p> |
| 2   | <b>障害特性に応じた就労機会の不足</b> <p>自由記述では、「障害者が働ける場所」「働ける場所を選択できるくらい就労場所があること」といった意見が見られた。</p> <p>本人の特性や希望に合った働き方の選択肢が十分でない場合、就労意欲があっても就労につながりにくいため、就労機会の拡充が課題であると言える。</p>  |

## (3) 次期計画の方向性 (案)

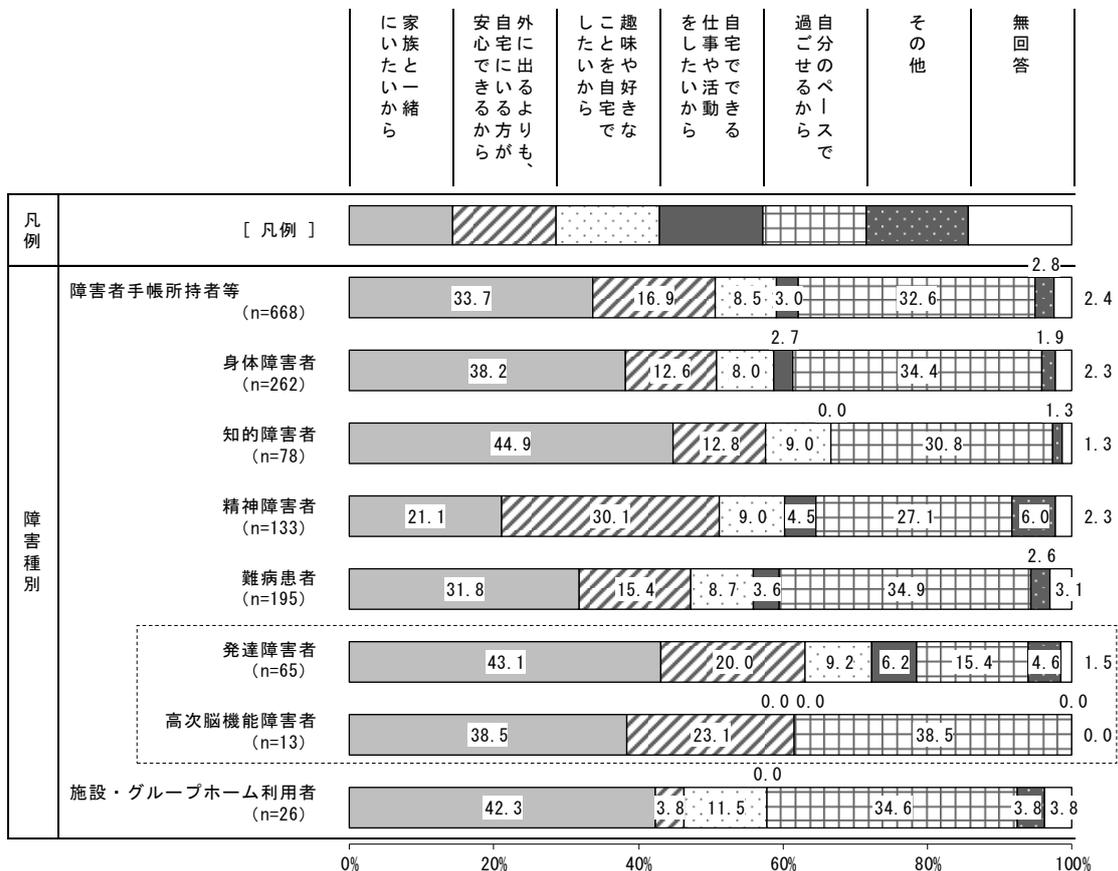
| No. | 検討の方向性   |
|-----|--|
| 1   | <b>職場の合理的配慮の促進</b> <p>企業の合理的配慮の提供を促進するため、企業向けに情報提供を行い、職場での理解促進を図る。あわせて、就労継続上の困りごとが生じた際に、早期に支援につながる相談導線の周知を進める。</p>         |
| 2   | <b>就労支援事業の充実と就労機会の拡充</b> <p>就労に資する訓練・資格取得等に関する制度情報を整理し、必要な情報提供に努めるとともに、本人の希望や特性に応じた働き方の選択肢を確保するため、関係機関と連携して就労機会の拡充を図る。</p> |



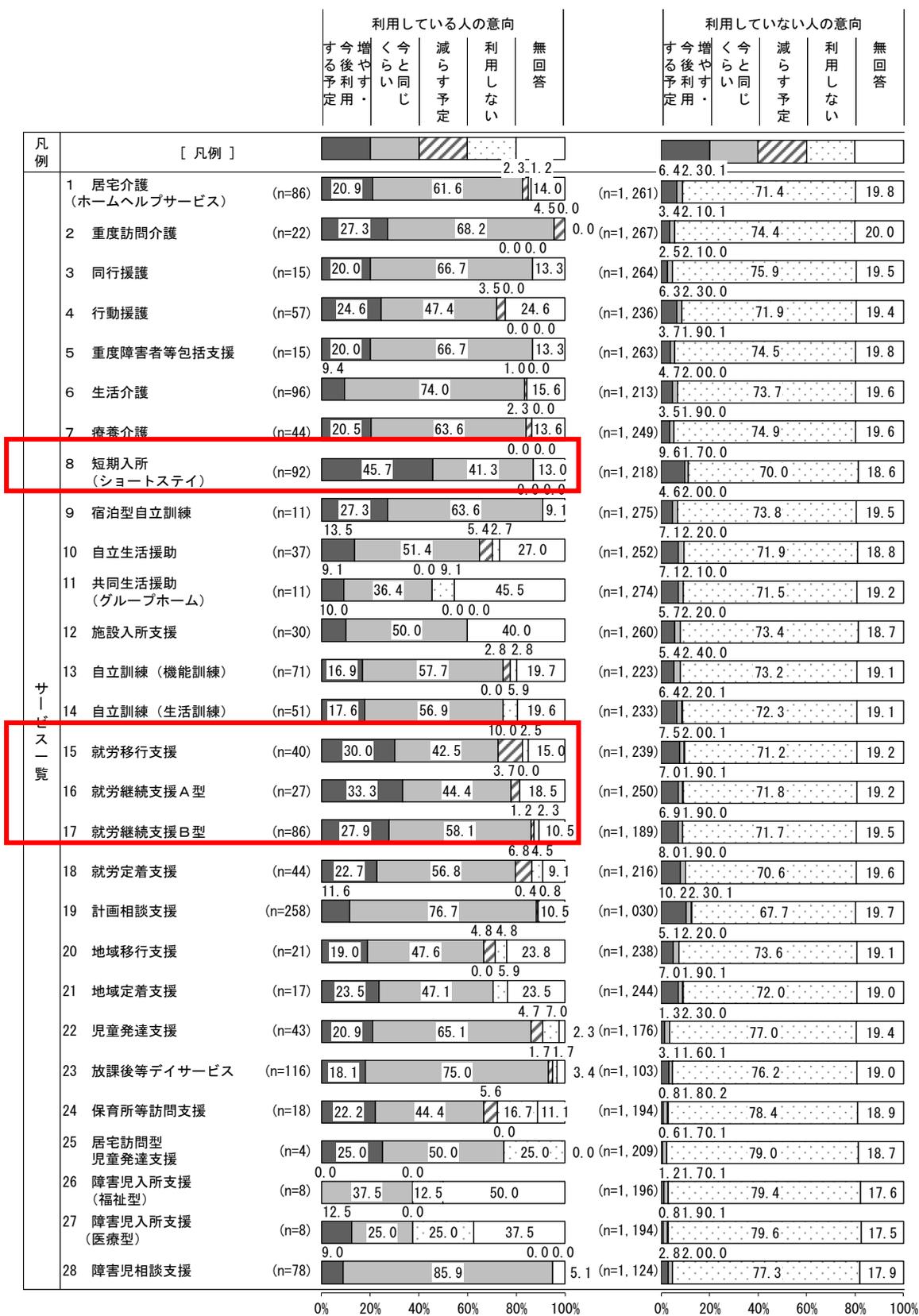
## 【障害のある人が地域で生活するために必要なこと】



## 【日中自宅で過ごしたい理由】



## 【障害福祉サービス等の利用意向】



【施策分野6に関連する自由記述（抜粋）】

| No.                            | 内容   |
|--------------------------------|--|
| <b>■日中、自宅で困っていること（当事者）</b>     |  |
| 1                              | 父母が死去したら1人で生活できない。   |
| 2                              | 介助者（妻）が体調崩した時1人では何もできない。   |
| 3                              | 就労できず収入がなく将来がとても不安。不安がストレスになり体調にも影響している。生活全体の相談にのってくれる人がいない。                 |
| <b>■障害者が地域で暮らすのに必要なこと（当事者）</b> |  |
| 1                              | 社会が障害に理解すること。  |
| 2                              | 全て必要。ホーム等の数をただ増やすというよりも質が大事。重度の障害者含め終の住処となる様な場所、関わり続けてくれる専門的知識のある理解者、支援者が必要。 |
| <b>■生活で困っていること（当事者）</b>        |  |
| 1                              | 将来1人になった時どうすればよいか。   |
| 2                              | 両親が亡くなってしまい生活費が不足していると感じる。   |
| <b>■将来、日中を自宅で過ごしたい理由（当事者）</b>  |  |
| 1                              | 一人で外出できないから。   |
| 2                              | 自宅以外に安心して過ごす場がない。  |
| 3                              | 仕方がないので、自宅しかないの。   |

（2）見えてくる課題

| No. | 課題の考察   |
|-----|---|
| 1   | <p><b>「親亡き後」や緊急時の不安</b></p> <p>「親亡き後」の不安が見られるほか、介助者（家族）の急病時に一時的な預かりが得られず困った等の声もあり、将来不安や緊急時に備え、必要な支援につながる体制整備が求められる。</p> |

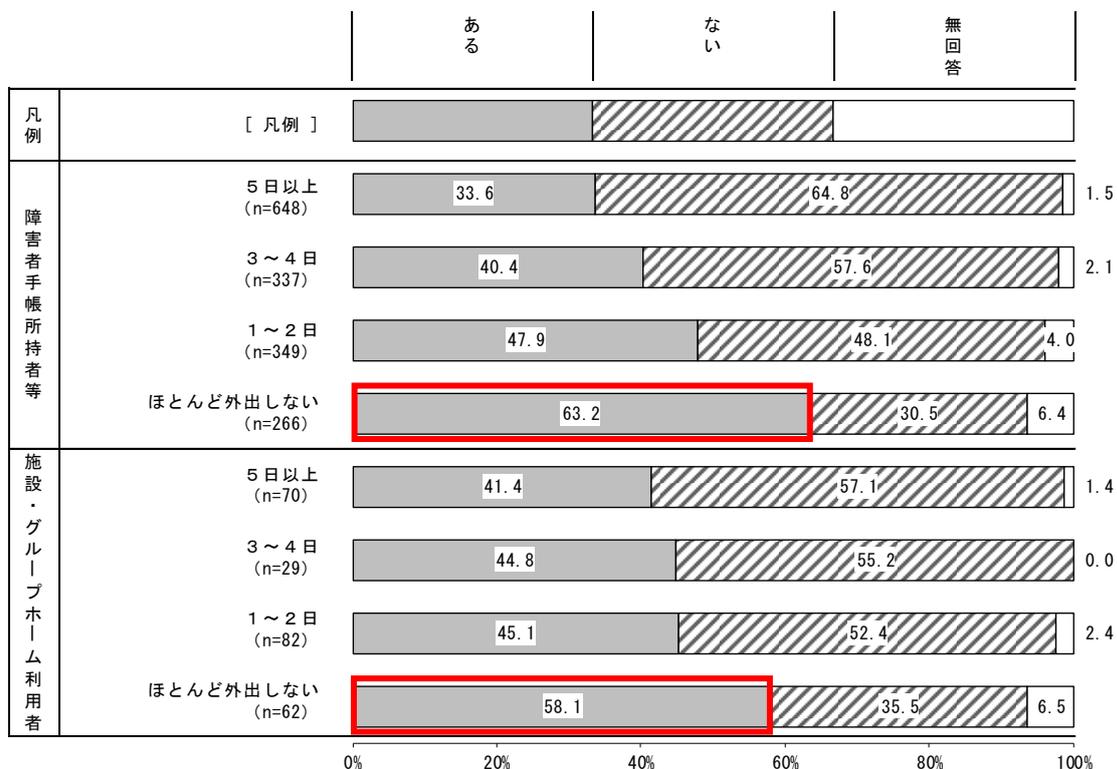
（3）次期計画の方向性（案）

| No. | 検討の方向性  |
|-----|---|
| 1   | <p><b>「親亡き後」に備えた地域生活支援拠点の整備促進</b></p> <p>既存の社会資源を活用した地域生活支援拠点の機能強化を進め、潜在的なニーズを把握し、必要な人に支援が届くよう情報提供に努める。</p> |
| 2   | <p><b>重度障害者に対応した短期入所施設の整備促進</b></p> <p>重度の障害者に対応した短期入所などの受け皿確保に向け、事業所への働きかけを行い、緊急時の支援や家族の負担軽減を図る。</p>       |

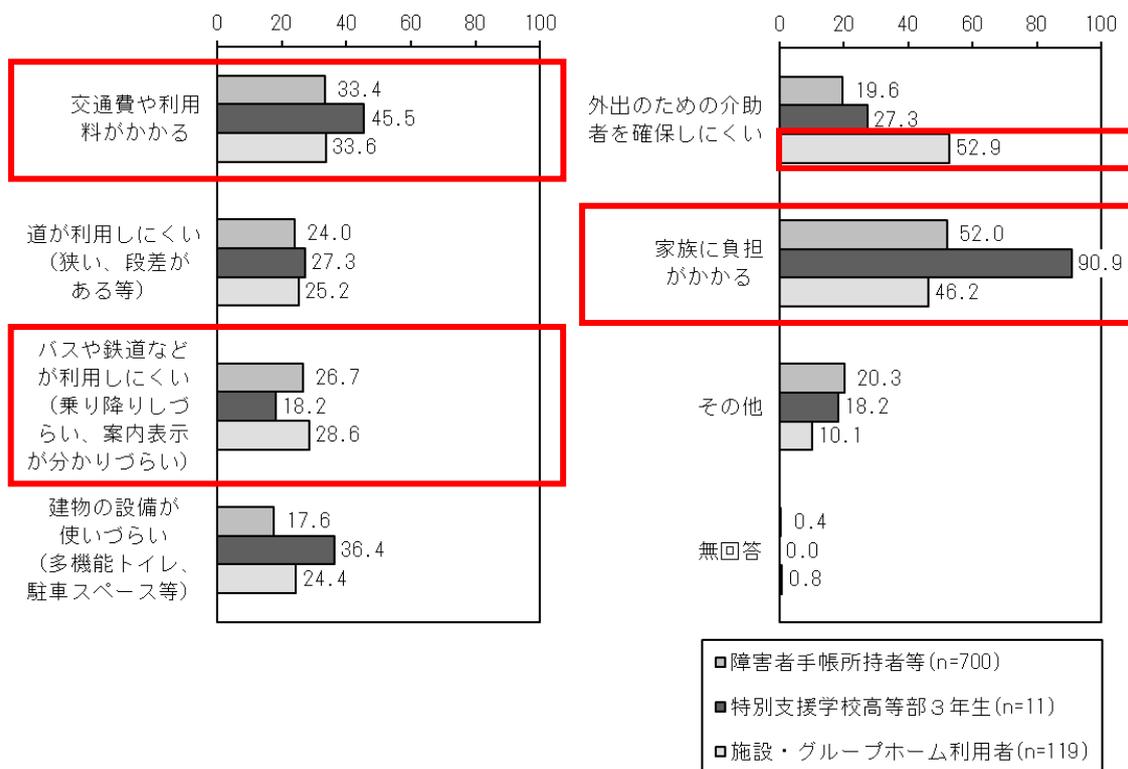
## 施策分野7 社会参加の拡充

### (1) 関連するアンケート調査の結果

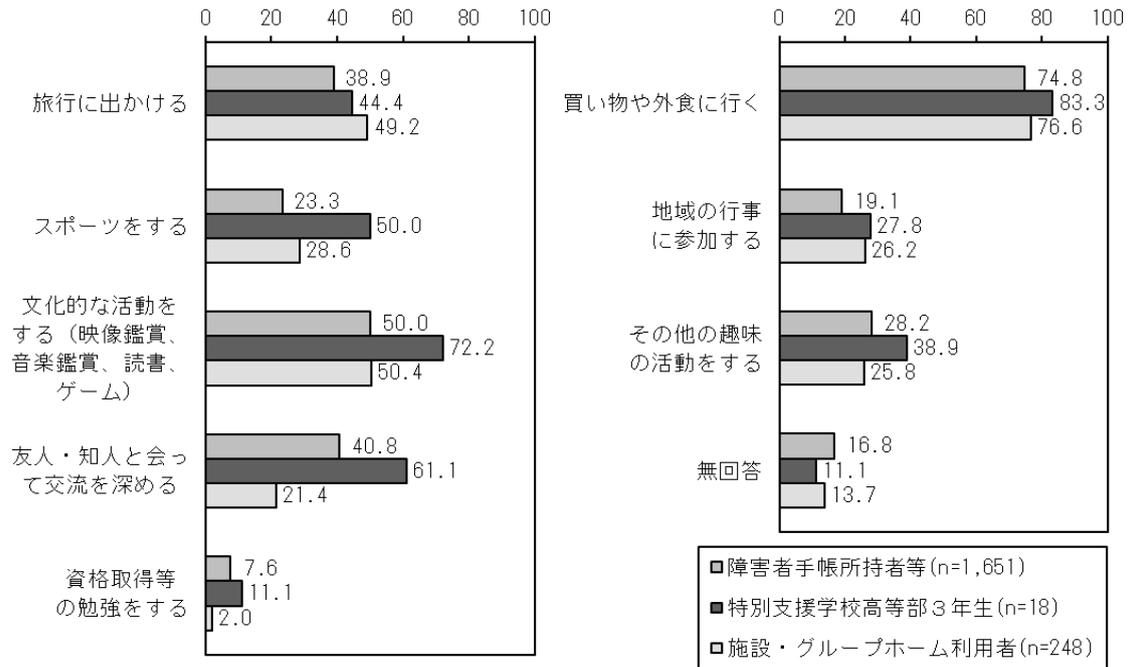
【外出頻度 × 外出の際に困っていることの有無】



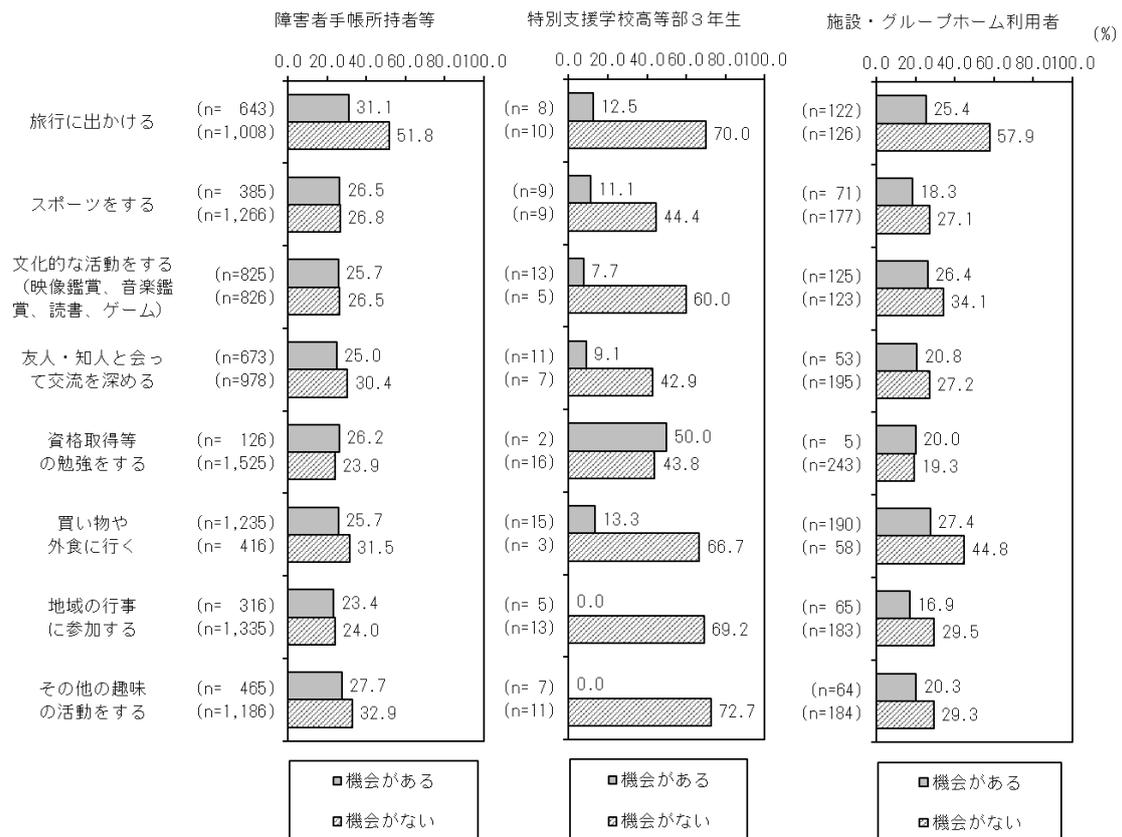
【外出の際に困っていること】



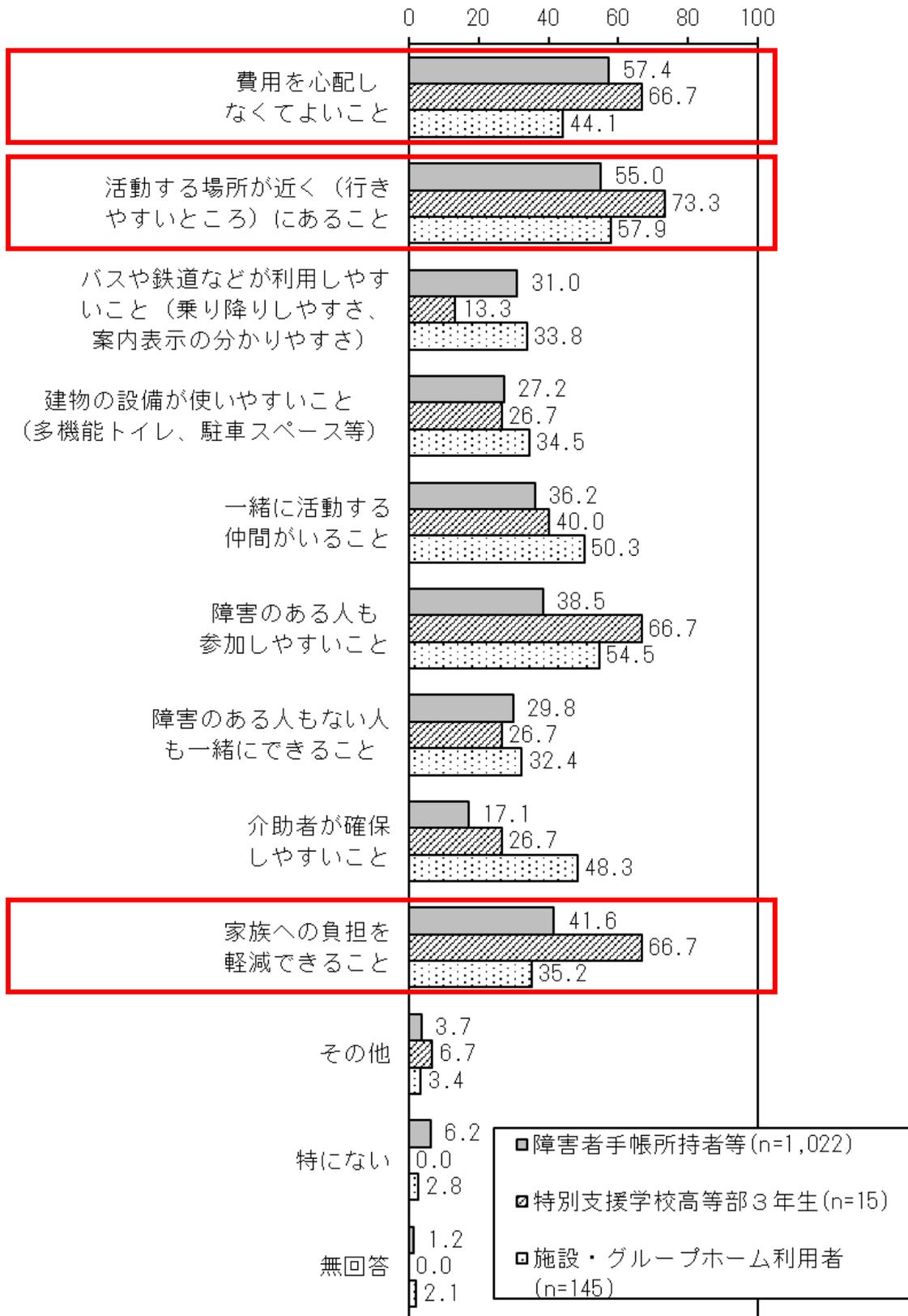
### 【1年間で活動機会があった余暇活動】



### 【活動機会の有無 × 今後してみたい余暇活動】



【活動機会なし × 今後してみたい × 余暇活動に必要なこと】



【施策分野7に関連する自由記述（抜粋）】

| No.                       | 内容  |
|---------------------------|---|
| <b>■外出の際に困っていること（当事者）</b> |   |
| 1                         | バスの本数が少ない。バス時刻表、アクセス悪い、駅まで遠い。                       |
| 2                         | 市内循環バスの紙表示(調べなくとも広報等)本があると良い。                       |
| 3                         | 介護タクシーが高い。  |
| 4                         | トイレを探すのが負担。トイレが整備されていない時がある。                        |
| 5                         | 1人の時の外出で人が多い場所だと過呼吸が起こったり、何か不測の事態が起こったらどうしようと不安がある。 |
| 7                         | 1人で行きたいところに自由に行きたいがいけない。                            |
| <b>■余暇活動に必要なこと（当事者）</b>   |   |
| 1                         | トイレの不安があるので、トイレを増やしてほしい。                            |
| 2                         | 情報が欲しい。   |
| 3                         | 受け入れ先に、障害への理解が十分にあること。                              |

(2) 見えてくる課題

| No. | 課題の考察   |
|-----|---|
| 1   | <p><b>家族負担や費用負担</b></p> <p>社会参加の意欲がある一方で、「費用負担」、「交通機関の使いやすさ」、「家族の負担」などから、外出がためられる状況があると考えられる。</p>                                     |
| 2   | <p><b>交通手段・トイレの不足や情報入手</b></p> <p>バスの本数が少ない、バス停が遠く利用しにくいといった声がある。また、多機能トイレの不足や場所が分かりにくいことへの意見もあり、外出の際に必要な情報が十分に整理・周知されていない可能性がある。</p> |
| 3   | <p><b>障害に対する理解</b></p> <p>活動先での障害に対する理解についての不安がある。</p>  |

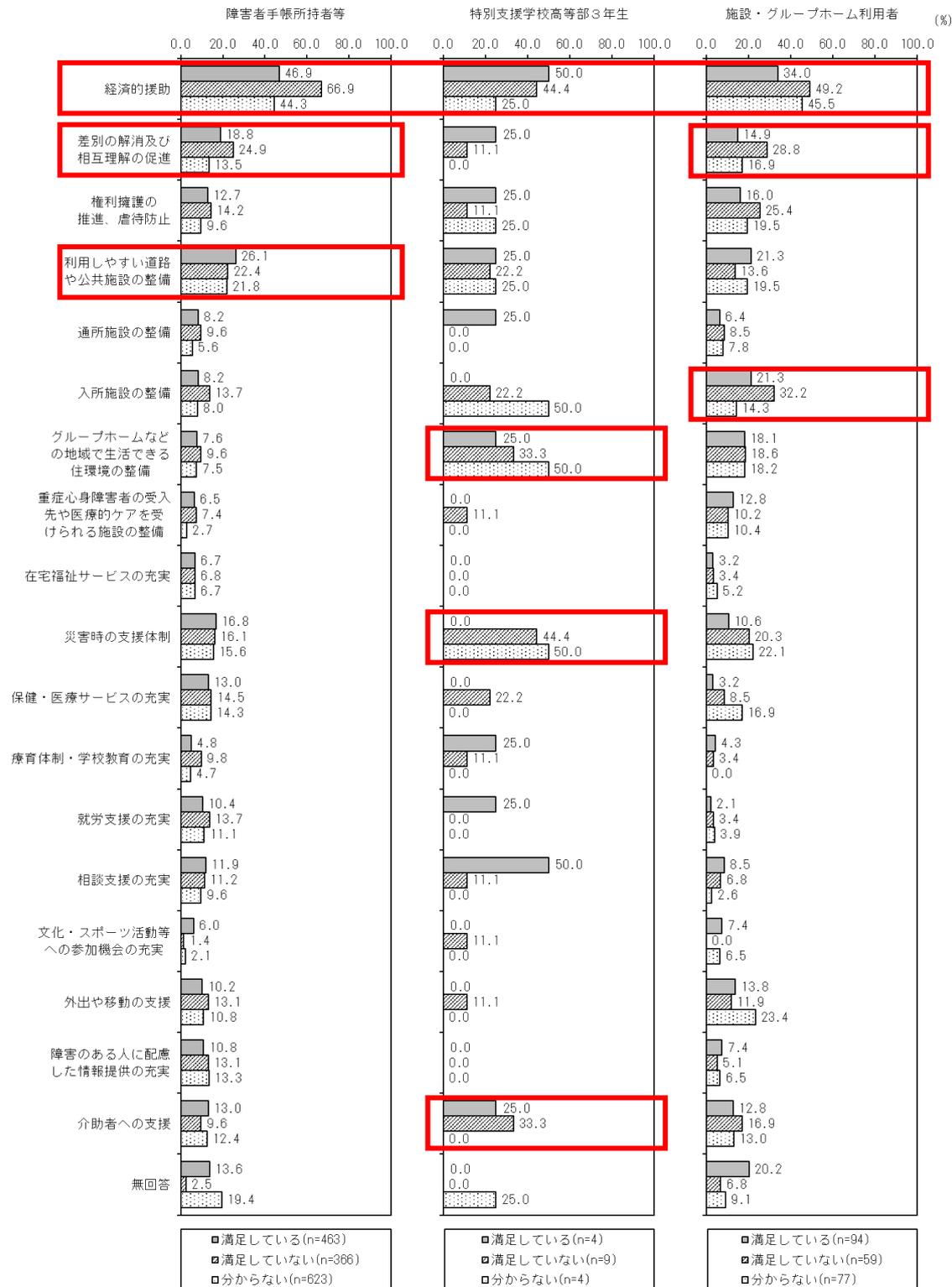
(3) 次期計画の方向性（案）

| No. | 検討の方向性   |
|-----|--|
| 1   | <p><b>（再掲）外出に際しての家族負担の軽減</b></p> <p>※施策分野4でも対応</p>                                     |
| 2   | <p><b>外出時に必要な情報の整理</b></p> <p>交通手段やトイレの場所など、外出の際に必要な情報を分かりやすい形で整理し、多媒体による周知を進めていく。</p> |
| 3   | <p><b>（再掲）差別の解消及び相互理解の促進</b></p> <p>※施策分野1でも対応</p>                                     |

#### 4 障害者施策の満足度

| 計画の総合的な成果指標   | 前回調査(R4) | 今回調査(R7) | 目標値  |
|---------------|----------|----------|------|
| 障害者施策の満足度 (%) | 33.9     | 28.1     | 42.0 |

#### 【障害者施策の満足度 ×改善してほしい市の取組】



参考：前回調査(R4)「市が充実させていけば良いと思う障害者施策」上位5施策  
 手帳所持者等：経済的援助、就労支援、差別解消、災害時支援、障害特性周知啓発  
 特支高校3年：差別解消、経済的援助、就労支援、外出支援、障害特性周知啓発  
 施設・GH：入所施設整備、外出支援、障害特性周知啓発、差別解消、GH等整備